

<記入例①> 社会福祉施設(入所) × 施設外避難可能タイプ

【施設名称〇〇〇〇】

土砂災害警戒避難確保計画

作成年月日:2025 年 4 月

1.計画の目的

この計画は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(以降、「土砂災害防止法」と称す)第八条の二第1項に基づくものであり、本施設の利用者の土砂災害時の円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的とする。

2.計画の報告

計画を作成及び必要に応じて見直し・修正をしたときは、土砂災害防止法第八条の二第2項に基づき、遅滞なく、当該計画を市町村長へ報告する。

3.計画の適用範囲

この計画は、本施設に勤務又は利用する全ての者に適用するものとする。

【施設の状況】

人 数			
昼 間・夜 間		休 日	
利用者	施設職員	利用者	施設職員
昼 間	昼 間	休 日	休 日
約 100 名	約 30 名	約 100 名	約 20 名
夜 間	夜 間		
約 100 名	約 5 名		

4.土砂災害の危険性および避難対応の把握

土砂災害の危険性について、様式 1-1 に本施設周辺の土砂災害警戒区域等を整理するとともに、状況を加味した避難対応を様式 1-2 に示す。

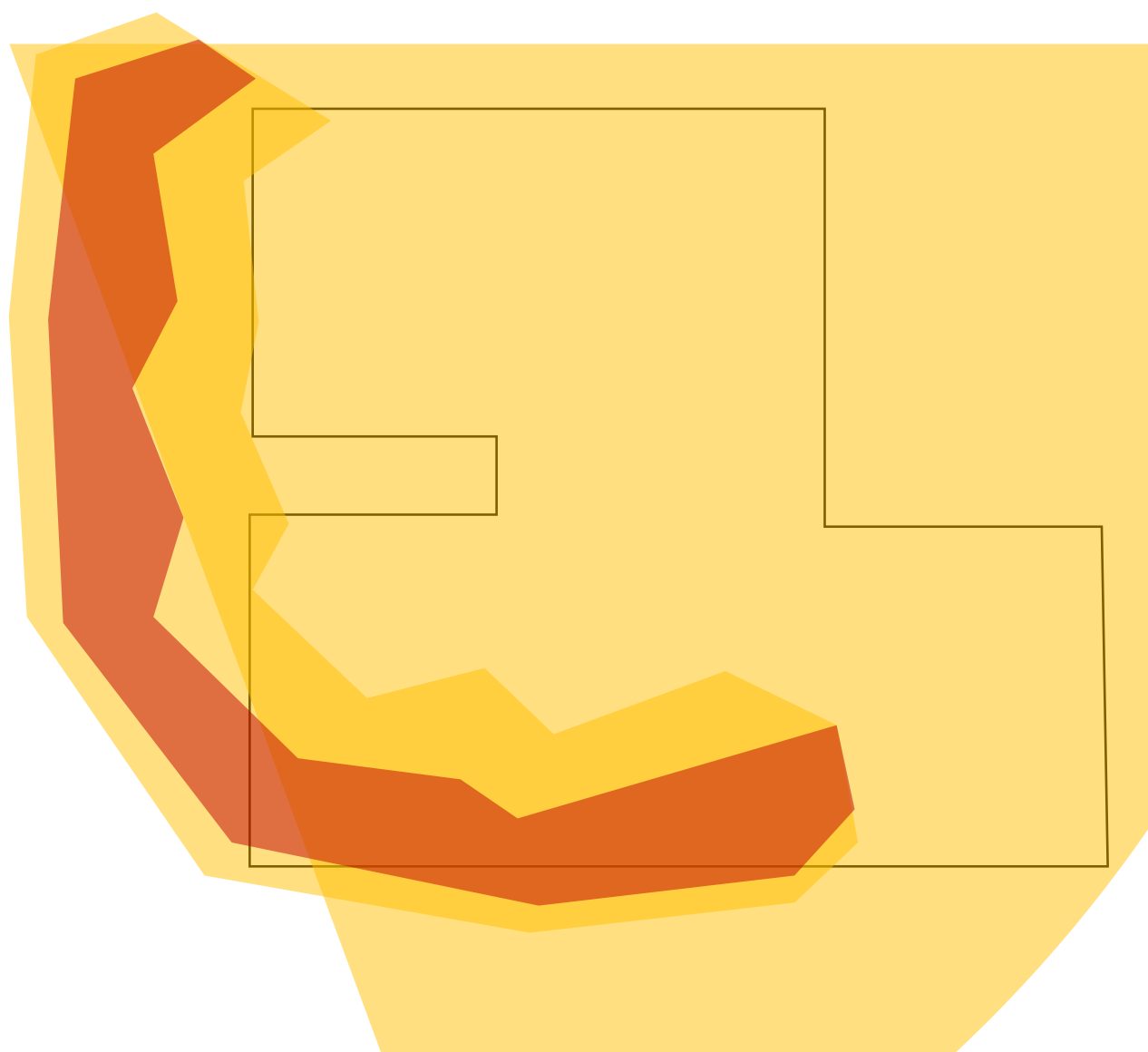
■当該施設で想定される土砂災害の危険性

【主担当： 施設管理者 】

本施設周辺の土砂災害警戒区域等を下図(または別紙)に示す。

年 月 日作成

【イメージ図】



■当該施設の避難タイプ(総合判断表)

【主担当： 施設長 】

本施設の避難タイプを下表に示す。

年 月 日作成

		施設の立地・構造・階数条件に応じた避難タイプ	
		A	B
利用者や運営体制からみた避難行動実施可能性	ア	■施設外避難原則タイプ 施設外への避難が原則です。ただし、以下の点に留意する必要があります。 ・台風や移動性低気圧など、ある程度降雨の予想ができる場合が望ましい ・避難受入先との連携が必要となる ・避難中に被害に遭うリスクがある	■施設内避難可能タイプ 施設内での避難が可能です。ただし、以下の点に留意する必要があります。 ・想定を超えた被災をする可能性がある ・停電等に伴う施設機能の低下によって想定した避難ができない場合がある ・孤立被害につながる可能性がある
	イ	■施設外避難原則タイプ(準備段階) 施設外への避難が必要な立地・構造・階数の条件にありますが、利用者や運営体制面で避難が困難です。 状況を改善するには、スタッフを増やして利用者に見合った運営体制を実現するか、外部機関・施設による支援体制を強化する等の方策により「施設外避難原則タイプ」を目指すことが考えられます。	■施設内避難可能タイプ(準備段階) 施設内での避難が必要な立地・構造・階数の条件にありますが、利用者や運営体制面で避難が困難です。 状況を改善するには、スタッフを増やして利用者に見合った運営体制を実現するか、外部機関・施設による支援体制を強化する等の方策により「施設内避難可能タイプ」を目指すことが考えられます。 また、体制はそのままであっても、設備の改良や避難対象となる利用者の入居形態の見直し等を行うことにより、状況を改善することも考えられます。

本施設は 施設外避難原則タイプ です。

■土砂災害に対する状況想定

本施設で考えられる要配慮者の避難対応が必要となるような土砂災害発生時の状況を、下記に整理する(該当するチェック欄にチェック)。

また、それぞれの想定に応じて、様式 2-1(様式 2-2)に参集基準及び体制を整理する。

☒当施設は入所系施設であるため、下記の状況を想定し、 様式 2-1 に参集基準及び体制、避難(待避)基準を示す

想定1. 天候悪化などにより、避難(待避)対応が必要となる状況

想定2. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
昼間から夕方にかけて避難(待避)対応が必要となる状況

想定3. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
夜間から明け方にかけて避難(待避)対応が必要となる状況

☐当施設は通所系施設・学校であるため、下記の状況を想定し、 様式 2-2 に参集基準及び体制、避難(待避)基準を示す

想定4. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
施設・学校を事前に休所・休校する対応がとれる状況

想定5. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
通常通りに施設・学校を開けているが、
施設・学校を休所・休校する対応がとれる状況

■役割分担表【主担当：施設長】

年 月 日作成

<当該施設>

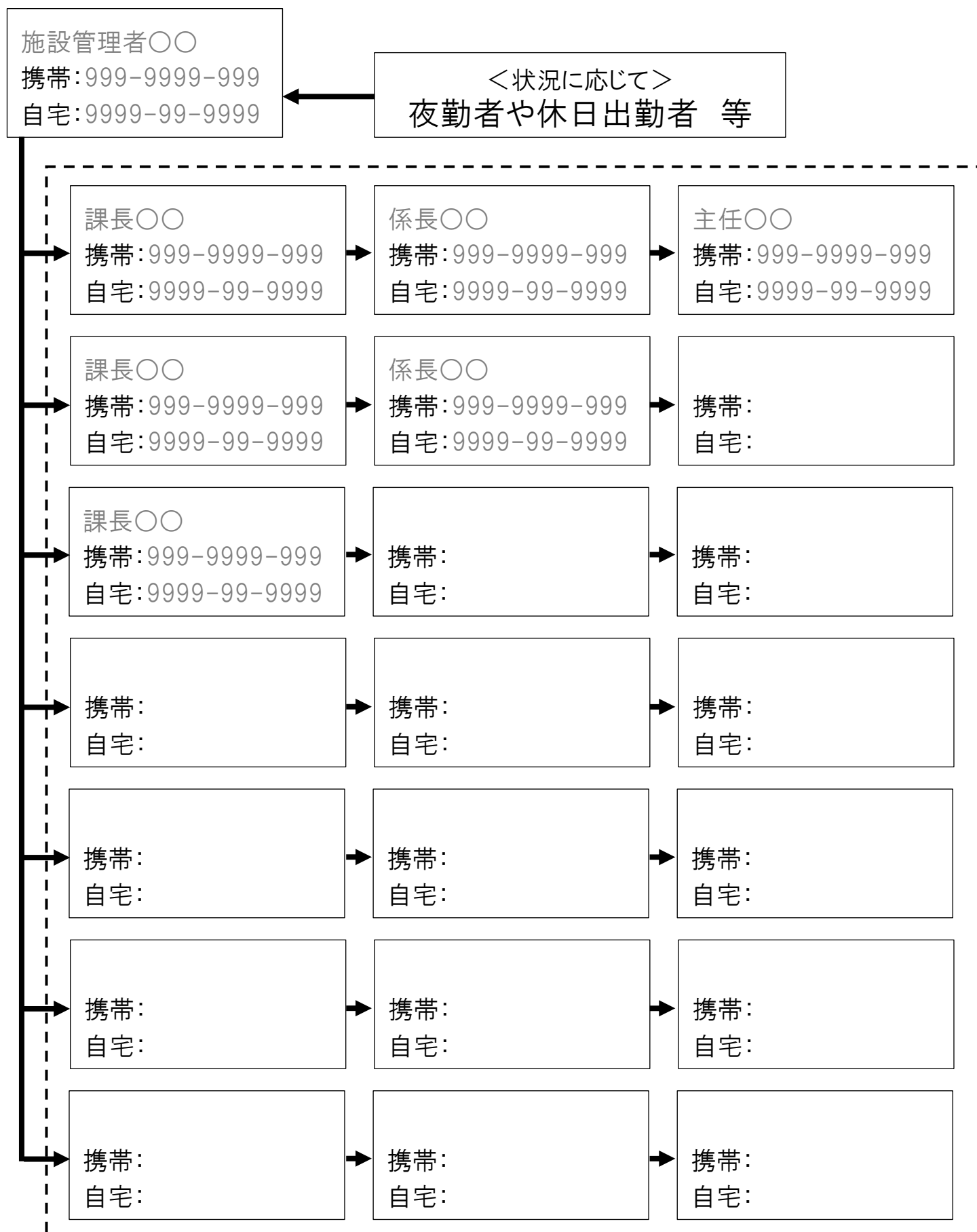
担当	業務内容	担当者	備考
総括責任者	☒ 総括責任(避難判断、防災対応についての指揮ほか全般) ☒ 関係機関との連絡・調整	☐ 総括責任者：施設長 ☐ 代理①：部長 ☐ 代理②：課長	
情報収集・連絡班	☒ 気象・災害の情報収集 ☒ 職員への連絡、職員・職員家族の安否確認 ☒ 関係機関との連絡・調整 ☒ 利用者家族への連絡 ☒ 地域住民やボランティア団体、近隣の社会福祉施設への救援要請等 ☒ 避難状況のとりまとめ ☐	☐ リーダー：部長 ☐ 代理①：課長 ☐ 代理②：係長 ☐ メンバー：適宜指示を出す	
避難誘導班	☒ 利用者の安全確認 ☒ 施設、設備の被害状況確認 ☒ 利用者への状況説明 ☒ 利用者の避難誘導 ☒ 利用者の家族への引き渡し ☒ 利用者家族への連絡	☐ リーダー：課長 ☐ 代理①：係長 ☐ 代理②：主任 ☐ メンバー：適宜指示を出す	
物資班	☒ 物資の普段からの維持管理 ☒ 物資の運搬 ☒ 物資の被災時の管理 ☐	☐ リーダー：係長 ☐ 代理①：主任 ☐ 代理②：リーダー ☐ メンバー：栄養士、 適宜指示を出す	

<協力施設>

担当	業務内容	協力施設・担当者	備考
協力施設	☒ 当該施設へ職員を派遣し、災害支援にあたる ☒ 避難者の受入を担当する ☐	高齢者福祉施設〇〇 障害者支援施設〇〇	

■緊急連絡網【主担当： 連絡網整備担当 】

年 月 日作成



■ 参集基準及び体制、避難(待避)基準【主担当：施設長】

年 月 日作成

	☒ 想定1 天候悪化などにより、避難(待避)対応が必要となる	☒ 想定2 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、屋間から夕方にかけて避難(待避)対応が必要となる	☒ 想定3 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、夜間から明け方にかけて避難(待避)対応が必要になる	
体制	参集基準	出動体制	参集基準	出動体制
第一次体制 今後の状況に備えて情報を収集したり、関係者に連絡をとったりできる体制	☒ 近隣市町村で大雨注意報が発表 ☐ () ☐ ()	☐ 総括責任者 ☒ 情報収集・連絡班 ☐ 避難誘導班 ☐ 物資班 ☐ () ☐ ()	☐ 近隣市町村で大雨注意報が発表 ☒ 朝から対応 ☐ () ☐ ()	☒ 総括責任者 ☒ 情報収集・連絡班 ☐ 避難誘導班 ☐ 物資班 ☐ () ☐ ()
第二次体制 施設利用者の避難(待避)準備をおこなえる体制	☒ 大雨注意報が発表 ☐ () ☐ ()	☐ 総括責任者 ☒ 情報収集・連絡班 ☒ 避難誘導班 ☒ 物資班 ☐ () ☐ ()	☐ 大雨注意報が発表 ☒ 朝から対応 ☐ () ☐ ()	☒ 総括責任者 ☒ 情報収集・連絡班 ☒ 避難誘導班 ☒ 物資班 ☐ () ☐ ()
第三次体制 施設利用者の避難(待避)を開始できる体制	☒ 大雨警報 (土砂災害)が発表 ☐ () ☐ ()	☒ 総括責任者 ☒ 情報収集・連絡班 ☒ 避難誘導班 ☒ 物資班 ☒ (全職員) ☐ ()	☐ 大雨警報 (土砂災害)が発表 ☐ 朝から対応 ☒ 屋から対応 ☐ () ☐ ()	☒ 総括責任者 ☒ 情報収集・連絡班 ☒ 避難誘導班 ☒ 物資班 ☒ (全職員) ☐ ()
避難(待避)基準	☒ 避難準備・高齢者等避難開始が発令 ☒ 土砂災害警戒情報が発表 ☐ 累積雨量が()mm を超過 ☐ 時間雨量が()mm を超過 ☒ 前兆現象を確認 ☐ () ☐ ()	☒ 避難準備・高齢者等避難開始が発令 ☒ 土砂災害警戒情報が発表 ☐ 累積雨量が()mm を超過 ☐ 時間雨量が()mm を超過 ☒ 前兆現象を確認 ☐ () ☐ ()	☒ 避難準備・高齢者等避難開始が発令 ☒ 土砂災害警戒情報が発表 ☐ 累積雨量が()mm を超過 ☐ 時間雨量が()mm を超過 ☒ 前兆現象を確認 ☒ 日勤者が出勤してきたタイミング ☐ () ☐ ()	☒ 避難準備・高齢者等避難開始が発令 ☒ 土砂災害警戒情報が発表 ☐ 累積雨量が()mm を超過 ☐ 時間雨量が()mm を超過 ☒ 前兆現象を確認 ☒ 日勤者が退勤する前のタイミング ☐ () ☐ ()

■情報収集・伝達事項の整理

本施設に関わる災害の危険性などを把握するために情報収集をおこなうとともに、職員や外部機関、利用者家族などへの情報伝達をおこなうことで、円滑かつ迅速な避難誘導へと繋げること目指し、情報収集・伝達事項について、下記に整理する。

(1) 情報収集及び情報伝達を担う担当者

- ・様式 2① に示す「情報収集・連絡班」を基本とする
- ・夜間や休日など通常体制と異なる場合は、
「情報収集・連絡班」が参集するまで在勤者が役割を担う
- ・その他
()

(2) 情報収集

- ・収集する主な情報及び収集方法を、様式 3-1 に整理する。
- ・基本的には、下記のような情報を対象とする。
 - － “気象情報”・“避難情報”などの行政からの情報
 - － “雨量”などの実測値
 - － 施設周辺で確認される“土砂災害の予兆現象”など
- ・その他
()

(3) 情報伝達

- ・入手情報の伝達・共有ルートを様式 3-2 に整理する。
- ・また、外部機関との連携が想定される場合には、あらかじめその旨を相談し、緊急連絡先として整理する。
- ・その他
()

■入手情報の概要・入手方法等【主担当：情報収集・連絡班】

(様式3-1)

年 月 日作成

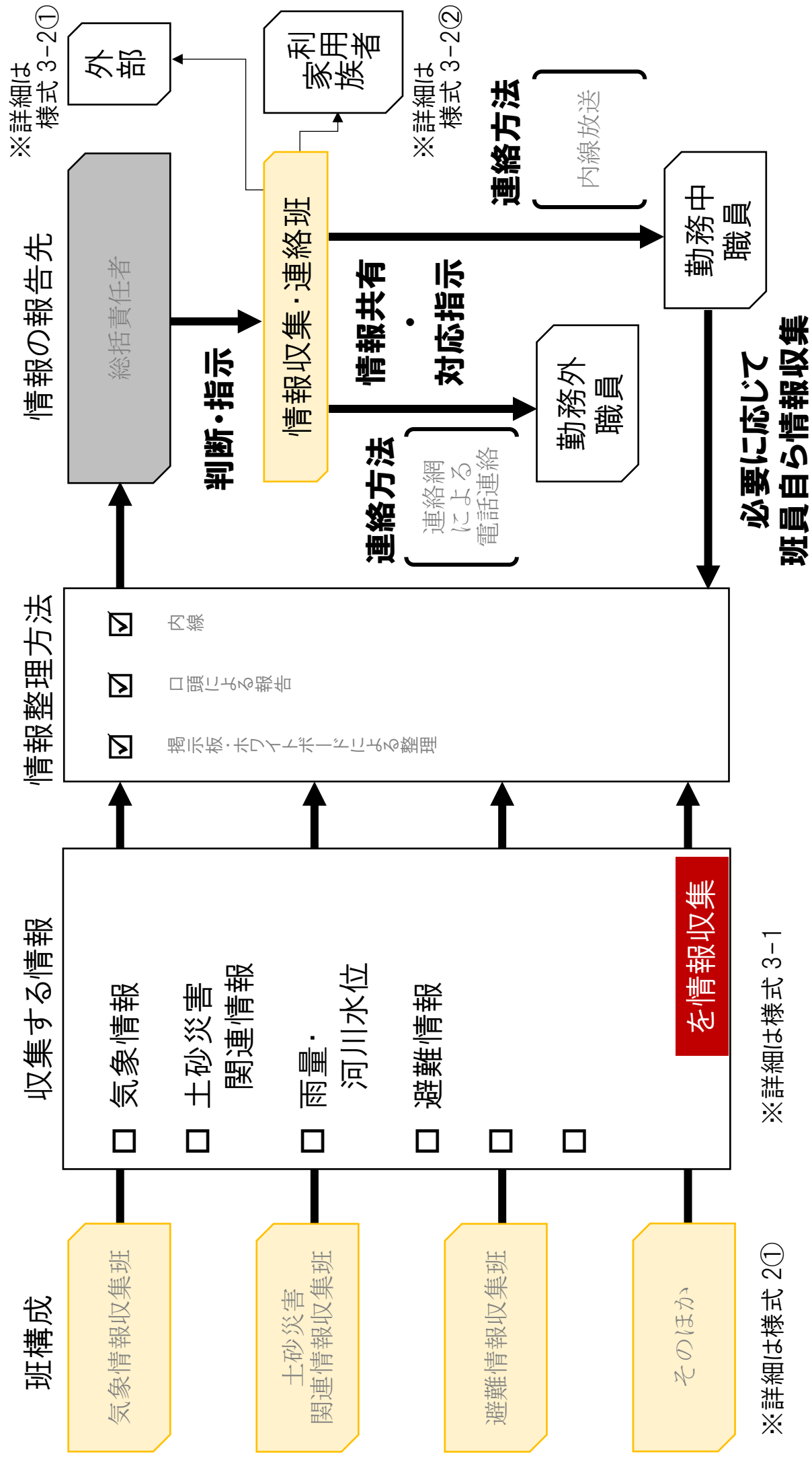
※事前にウェブサイトをお気に入り登録するなどして、緊急時に備える【使用するPC： 利用者情報登録用PC】

情報名		概要	活用場面	主な入手方法	備考
気象情報	大雨注意報／大雨警報／大雨特別警報	災害がおこるおそれのあるときに気象庁が発表する雨の強さを表した基準	☒ 体制の移行 ☐ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
	記録的短時間大雨情報	数年に一度程度しか発生しないような大雨時に発表。現在の降雨が災害の発生につながる可能性があることを意味する	☐ 体制の移行 ☒ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
	天気予報・台風情報・雨雲の様子等	数日・週間単位の天気の移り変わりを把握するために特に重要となる情報	☒ 体制の移行 ☐ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか(自治体メール)	
	土砂災害警戒情報	大雨警報(土砂災害)が発表されている状態で、危険度がさらに高まったときに、市町村単位で警戒をよびかける情報	☐ 体制の移行 ☒ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
雨量・河川水位	土砂災害警戒判定メッシュ情報	土砂災害警戒情報、大雨警報等を補足する情報。5km四方の領域(メッシュ)ごとに土砂災害発生の危険度を5段階に判定した結果を表示	☐ 体制の移行 ☒ 避難判断 ☐	ウェブサイト そのほか()	
	土砂災害の予兆現象	土砂災害発生前には、予兆現象が確認されることがある。各種情報が発表・発令されていない状況においても有益な情報として活用できる	☐ 体制の移行 ☒ 避難判断 ☐	施設職員の目視、ライブカメラ そのほか()	
	雨量情報	現状の雨量及び過去3日程度の雨量(累計雨量)が確認できる(一定の雨量が長期間継続している場合等注意が必要)	☒ 体制の移行 ☐ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
	河川水位情報	現状の水位及び過去1日程度の水位変化が確認できる(一定の基準以上の水位上昇が確認できる場合等注意が必要)	☐ 体制の移行 ☐ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
避難情報	避難準備・高齢者等避難開始／避難勧告／避難指示(緊急)	市町村から発令される避難の基準。要配慮者施設等では早めの避難が求められている。	☐ 体制の移行 ☒ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか(戸別受信機)	

■入手情報の伝達・共有ルート【主担当：情報収集・連絡班】

(様式3-2)

年 月 日作成



■外部への情報伝達ルート及び緊急連絡先一覧表

【主担当:情報収集・連絡班】

年 月 日作成

1. 下記の際に外部へ情報伝達をおこなう（該当する体制をチェック）

☐ 第2次体制時 ☐ 第3次体制時 ☒ 避難(待避)行動開始時

2. 情報伝達ルートは下記のとおりである



3. 緊急連絡先一覧表を下記に整理する

連絡先	電話		FAX	担当者 氏名
		(夜間)		
協力施設〇〇	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	〇〇 〇〇
医療施設〇〇	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	〇〇 〇〇
自治体防災課	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	〇〇 〇〇
自治体福祉課	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	〇〇 〇〇
自治体消防本部	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	〇〇 〇〇
消防・救急	119	119		
警察	110	110		

■施設利用者把握資料【主担当：利用者管理担当者】

年 月 日作成

①利用者一覧表(基本情報)

番号	部屋	氏名	生年月日	性別	移動時の支援の要否
1	101	〇〇 〇〇	9999/99/99	男	必要(車椅子)
2	102	〇〇 〇〇	9999/99/99	男	不要
3	103	〇〇 〇〇	9999/99/99	女	必要(寝たきり)

②利用者一覧表(個票)

番 号		1
部 屋		101
氏 名		〇〇 〇〇
生年月日		9999/99/99
性 別		男
心身の状態		高血圧
服用中の薬		降圧薬(毎食後)
搬送方法		車椅子、乗用車
避難に係る留意事項		目が悪いため、車椅子などで搬送する必要がある
連絡先1	氏 名	〇〇 〇〇
	続 柄	長男
	電 話	999-9999-9999
連絡先2	氏 名	
	続 柄	
	電 話	

■緊急時の避難誘導

避難誘導については、下記のとおり行う。

(1) 避難場所

- ・避難場所の名称を下表に整理するとともに、様式 4-1 または 様式 4-2 で図示する。

(2) 避難経路

- ・避難経路について 様式 4-1 または 様式 4-2 で図示する。

(3) 避難誘導

- ・避難場所までの移動距離及び移動手段を下表に整理する。

施設タイプ チェック (5 ページ結果)	避難 方法	避難場所	移動 距離	移動 手段
✓	施設外 避難 原則	〇〇中学校	(500) m	☒ 徒歩 ☒ 車両 (5)台
	施設内 避難 可能			

※ 施設外避難が原則な場合においても、大雨等で施設外避難が困難だと想定される場合には、施設内で比較的安全と思われる場所へ待避を行う。

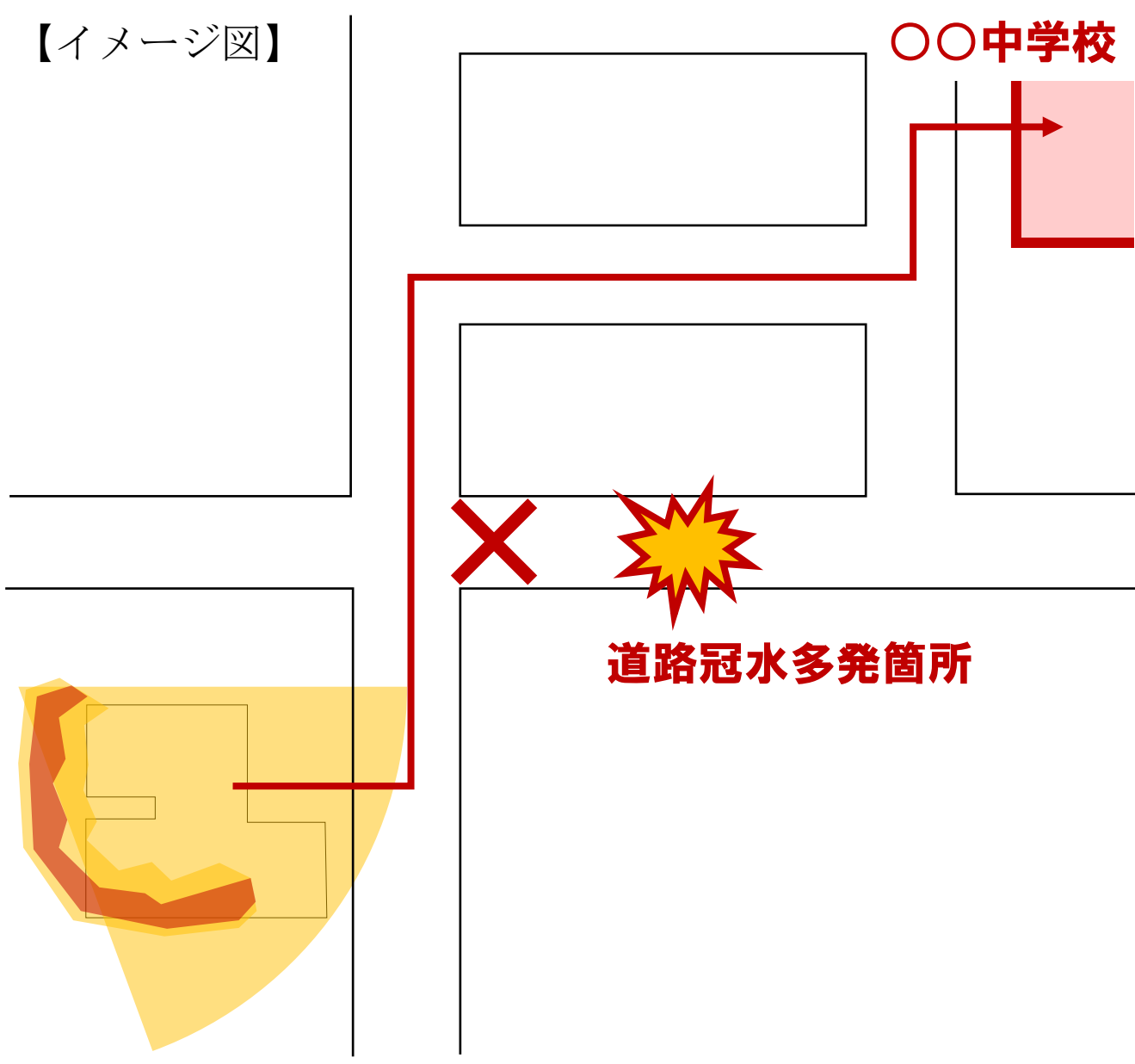
※ 施設内待避が可能な場合においても、今後の状況悪化に不安がある場合などにおいては、避難時間に余裕がある場合のみ施設外避難を行う。

施設外避難

■避難ルートと留意点 【主担当：避難誘導班】

施設外避難時のルートと避難の際の留意点を下図(または別紙)に示す。

年 月 日作成

【イメージ図】 	
避難先 施設情報	名 称： 〇〇中学校 住 所： 〇〇市〇〇町 9999 電話番号： 9999-99-9999 担 当 者： 〇〇 〇〇

施設外避難

配車計画表

【主担当：避難誘導班】

年 月 日作成

配車計画表

便 名	3 号車		
移送先	〇〇中学校	人数	3 名
施設内誘導担当	〇〇 〇〇		
避難先担当	〇〇 〇〇		
車両	ダイハツ 〇〇		
運転手	〇〇 〇〇		
同乗者	〇〇 〇〇、〇〇 〇〇、〇〇 〇〇		
乗車場所	施設駐車場		
内 訳	座 席	4 名	
	車いす	0 名	
	リクライニング式車いす	0 名	
	ストレッチャー	0 名	

■備蓄品および災害時必要品チェックリスト

(様式5)

【主担当：物資班】

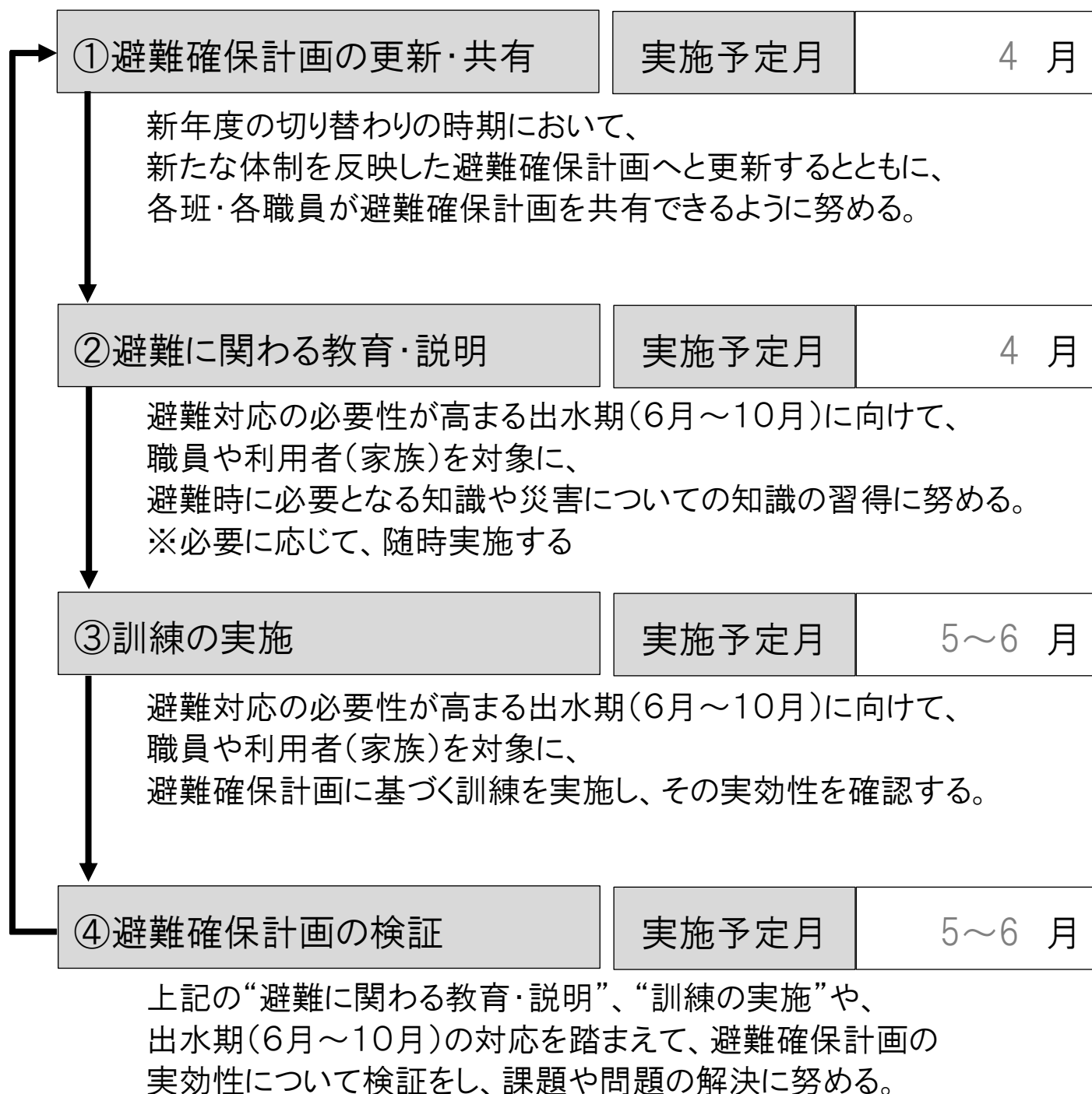
年 月 日作成

避難(待避)の確保を図るため、下表に示す備品(チェックを入れたもの、括弧内には個数)を準備する。また、日頃からその維持管理に努めるものとする。

大区分	小区分	品名	必要物資	携行品	備蓄品	品名	必要物資	携行品	備蓄品
食料	食料品等	米(130 人分)	✓	✓		お菓子類()			
		飲料水(130 人分) [1 人 1 日 3 リットル]	✓	✓		栄養補助食品(130 人分) [経管栄養剤、ブリックゼリー等]	✓	✓	
	炊事道具等	カセットコンロ(10)	✓	✓		厨房の大きな鍋(2)	✓		
		炊飯器(5)	✓			やかん(2)	✓		
		紙皿(130 人分)	✓	✓		割り箸(130 人分)	✓	✓	
日常生活品	情報機器等	サーバー一式				事務所ノートPC(3)	✓	✓	
		カルテ管理用 PC	✓	✓		携帯電話(各自)	✓	✓	
		テレビ(1)	✓			ラジオ(1)	✓	✓	
		ファックス(1)	✓						
	生活用品等	トイレトペーパー(5 ケース)	✓	✓		ティッシュペーパー(5 ケース)	✓	✓	
		リハビリパンツ M・L(5 ケース)	✓	✓		紙オムツ M・L(5 ケース)	✓	✓	
		尿取りパット夜用(5 ケース)	✓	✓		ウェットティッシュ(5 ケース)	✓	✓	
		ポータブルトイレ(5 ケース)	✓	✓		女性用ナプキン(5 ケース)	✓	✓	
		吸いのみ()				石けん()			
		ごみ袋(5 ケース)	✓	✓					
	照明、暖房等	石油ストーブ(5)	✓			カセットガスストーブ()			
		石油()				蓄電池()			
		カセットガス発電機()				懐中電灯(10)	✓	✓	
		ローソク(10 ケース)	✓	✓		電池(20 ケース)	✓	✓	
		ライター(5 ケース)	✓	✓					
	その他	利用者書類一式	✓	✓		小口金庫			
		勤務表	✓	✓					
医療介護用品	医療品等	体温計(10)	✓	✓		血圧計(10)	✓	✓	
		SP02()				各ユニット薬の板			
		解熱剤()				補液()			
		AED()				消毒液(5 ケース)	✓	✓	
	移送用具等	ストレッチャー(3)	✓	✓		車椅子(10)	✓	✓	
	医療施設用	酸素濃縮機()				酸素ボンベ(5)	✓	✓	
		吸引器(5)	✓	✓		吸引チューブ()			
		マスク(10 ケース)	✓	✓		手袋 M・L(5 ケース)	✓	✓	

■教育・訓練の年間計画

下記のとおり、教育・訓練を実施する。なお、具体の月日や内容については、施設の状況を勘案しその都度検討することとする。



＜記入例②＞ 学校 × 校舎内待避可能タイプ

【学校名称〇〇〇〇】

土砂災害警戒避難確保計画

作成年月日：2025 年 4 月

1.計画の目的

この計画は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(以降、「土砂災害防止法」と称す)第八条の二第1項に基づくものであり、当校の生徒・職員の土砂災害時の円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的とする。

2.計画の報告

計画を作成及び必要に応じて見直し・修正をしたときは、土砂災害防止法第八条の二第2項に基づき、遅滞なく、当該計画を市町村長へ報告する。

3.計画の適用範囲

この計画は、当校に勤務又は利用する全ての者に適用するものとする。

【当校の状況】

人 数			
昼 間・夜 間		休 日	
生徒	職員	生徒	職員
昼 間	昼 間	休 日	休 日
約 200 名	約 30 名	約 100 名 ※部活動時	約 15 名 ※部活動時
夜 間	夜 間		

4.土砂災害の危険性および避難対応の把握

土砂災害の危険性について、様式 1-1 に当校周辺の土砂災害警戒区域等を整理するとともに、状況を加味した避難対応を様式 1-2 に示す。

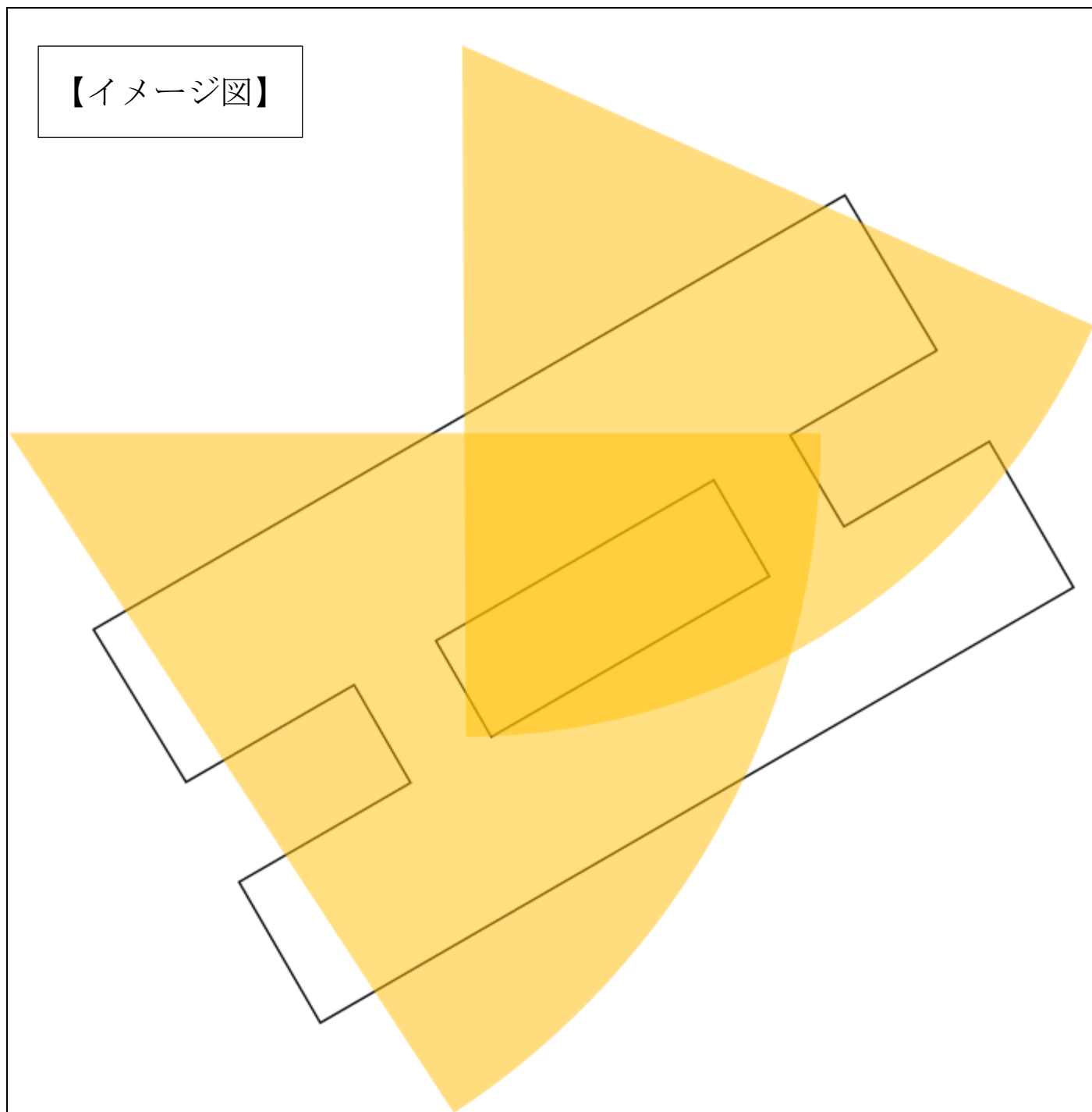
■当校で想定される土砂災害の危険性

【主担当： 校長 】

当校周辺の土砂災害警戒区域等を下図(または別紙)に示す。

年 月 日作成

【イメージ図】



■当校の避難タイプ(総合判断表)

【主担当： 校長 】

当校の避難タイプを下表に示す。

年 月 日作成

		当校の立地・構造・階数条件に応じた避難タイプ	
		A	B
生徒数や運営体制からみた避難行動実施可能性	ア	■校舎外避難原則タイプ 校舎外への避難が原則です。ただし、以下の点に留意する必要があります。 ・台風や移動性低気圧など、ある程度降雨の予想ができる場合が望ましい ・避難受入先との連携が必要となる ・避難中に被害に遭うリスクがある	■校舎内避難可能タイプ 校舎内での避難が可能です。ただし、以下の点に留意する必要があります。 ・想定を超えた被災をする可能性がある ・停電等に伴う施設機能の低下によって想定した避難ができない場合がある ・孤立被害につながる可能性がある
	イ	■校舎外避難原則タイプ(準備段階) 校舎外への避難が必要な立地・構造・階数の条件にありますが、生徒数や運営体制面で避難が困難です。 状況を改善するには、スタッフを増やして生徒数に見合った運営体制を実現するか、外部機関・施設による支援体制を強化する等の方策により「校舎外避難原則タイプ」を目指すことが考えられます。	■校舎内避難可能タイプ(準備段階) 校舎内での避難が必要な立地・構造・階数の条件にありますが、生徒数や運営体制面で避難が困難です。 状況を改善するには、スタッフを増やして生徒数に見合った運営体制を実現するか、外部機関・施設による支援体制を強化する等の方策により「校舎内避難可能タイプ」を目指すことが考えられます。 また、体制はそのままであっても、設備の改良や避難対象となる生徒が使用する教室の見直し等を行うことにより、状況を改善することも考えられます。

本校は 校舎内待避可能タイプ です。

■土砂災害に対する状況想定

当校で考えられる要配慮者の避難対応が必要となるような土砂災害発生時の状況を、下記に整理する(該当するチェック欄にチェック)。

また、それぞれの想定に応じて、様式 2-1(様式 2-2)に参集基準及び体制を整理する。

☐当施設は入所系施設であるため、下記の状況を想定し、 様式 2-1 に参集基準及び体制、避難(待避)基準を示す

想定1. 天候悪化などにより、避難(待避)対応が必要となる状況

想定2. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
昼間から夕方にかけて避難(待避)対応が必要となる状況

想定3. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
夜間から明け方にかけて避難(待避)対応が必要となる状況

☒学校であるため、下記の状況を想定し、 様式 2-2 に参集基準及び体制、避難(待避)基準を示す

想定4. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
学校を事前に休校する対応がとれる状況

想定5. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
通常通りに学校を開けているが、
学校を休校する対応がとれる状況

■役割分担表【主担当：校長】

年 月 日作成

<本校>

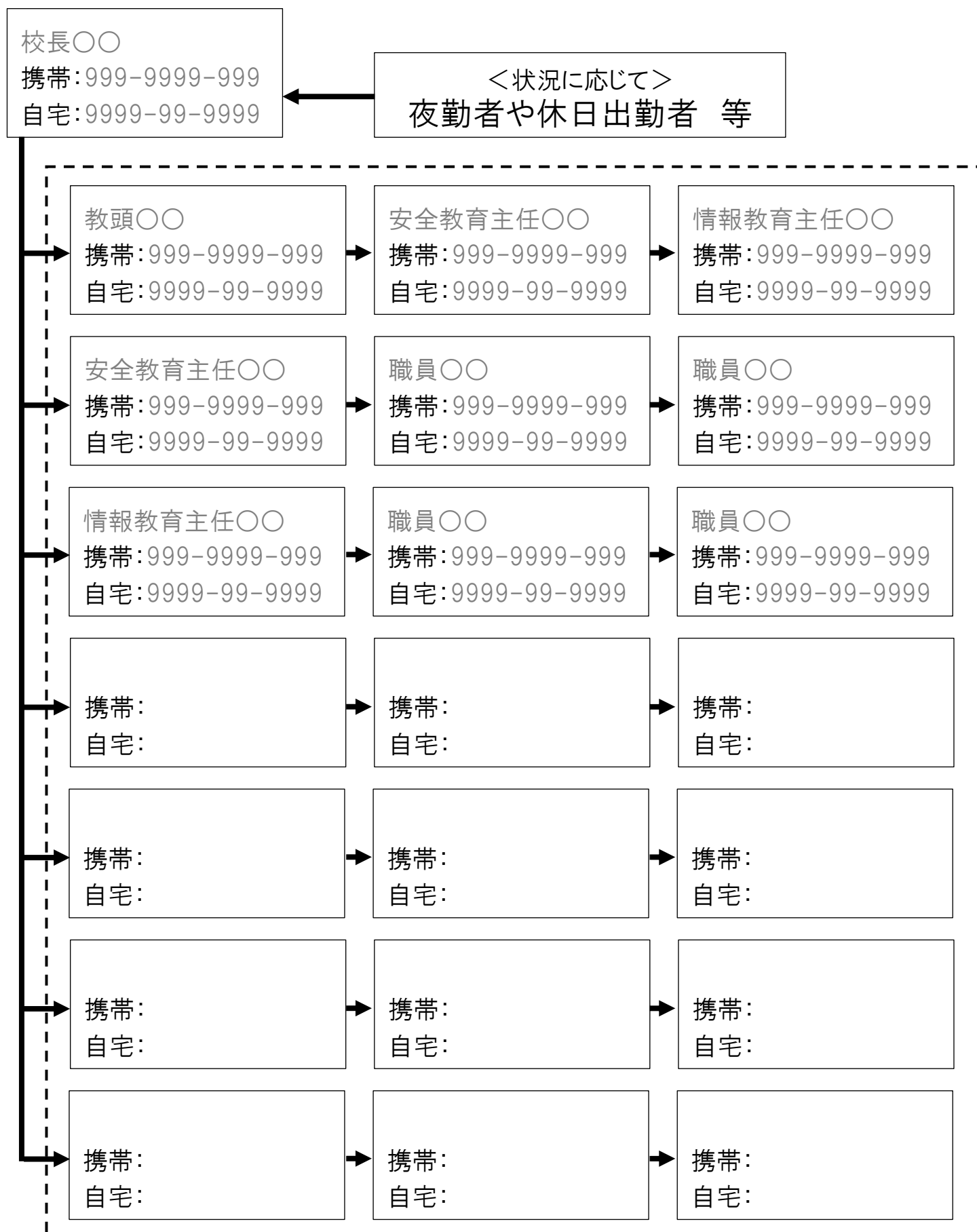
担当	業務内容	担当者	備考
総括責任者	☒ 総括責任(避難判断、 防災対応についての指揮ほか全般) ☐	☐ 総括責任者：校長 ☐ 代理①：教頭 ☐ 代理②：教務主任、 安全教育主任	
情報収集 ・連絡班	☒ 気象・災害の情報収集 ☒ 職員への連絡、職員・職員家族の安 否確認 ☒ 関係機関との連絡・調整 ☒ 生徒の保護者への連絡 ☒ 地域住民やボランティア団体、 近隣の施設への救援要請等 ☒ 避難状況のとりまとめ ☐	☐ リーダー：教頭 ☐ 代理①：情報教育主任 ☐ 代理②：教務主任 ☐ メンバー：適宜指示を出す	
避難誘導班	☒ 生徒・職員の安全確認 ☒ 校舎、設備の被害状況確認 ☒ 生徒・保護者・職員への状況説明 ☒ 生徒・職員の避難誘導 ☒ 生徒の保護者への引き渡し ☐	☐ リーダー：教頭 ☐ 代理①：安全教育主任 ☐ 代理②：教務主任 ☐ メンバー：適宜指示を出す	
物資班	☒ 物資の普段からの維持管理 ☒ 物資の運搬 ☒ 物資の被災時の管理 ☐	☐ リーダー：事務職員 ☐ 代理①： ☐ 代理②： ☐ メンバー：	

<協力施設>

担当	業務内容	協力施設・担当者	備考
近隣の学校	☐ 本校へ職員を派遣し、 災害支援にあたる ☐ 避難者の受入れを担当する ☒ 状況を共有し、 支援の必要性があれば依頼する	〇〇小学校	

■緊急連絡網【主担当： 連絡網整備担当 】

年 月 日作成



■ 参集基準及び体制、休校判断基準【主担当： 校長】

年 月 日作成

	☒ 想定4 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、 <u>学校を事前に休校する対応がとれる</u>	☒ 想定5 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、 <u>通常通りに学校を開けているが、</u> <u>学校を休校する対応がとれる</u>	※想定5の状況から 急激に事態が進展するなどして <u>避難(待避)対応が必要となった場合の</u> <u>避難(待避)基準</u>
体制	参集基準	出動体制	避難(待避)基準
第一次体制 今後の状況に備 えて情報を収集 したり、関係者に 連絡をとったりで きる体制	☐ 近隣市町村で 大雨注意報が発表 ☒ 前日から対応 ☒ 夜間から対応 ☐ () ☐ ()	☒ 総括責任者 ☒ 情報収集・連絡班 ☐ 避難誘導班 ☐ 物資班 ☐ () ☐ ()	☐ 避難準備・高齢者等避難開始 が発令 ☐ 土砂災害警戒情報 が発表)mm を超過 ☐ 累積雨量が()mm を超過 ☐ 時間雨量が()mm を超過 ☒ 前兆現象 を確認 ☒ (避難勧告 が発令)
第二次体制 学校休校の判 断をおこなえる 体制	☐ 大雨注意報が発表 ☐ 前日から対応 ☒ 夜間から対応 ☐ () ☐ ()	☒ 総括責任者 ☒ 情報収集・連絡班 ☐ 避難誘導班 ☐ 物資班 ☐ () ☐ ()	
第三次体制 子どもの送迎や 引き渡しを開始 できる体制		☐ 大雨警報 (土砂災害)が発表 ☒ 朝から対応 ☐ 屋から対応 ☐ () ☐ ()	
休校 判断基準	☒ 避難準備・高齢者等避難開始 が発令 ☐ 土砂災害警戒情報 が発表 ☐ 累積雨量が()mm を超過 ☐ 時間雨量が()mm を超過 ☐ 前兆現象 を確認 ☒ (教育委員会からの連絡があった場合) ☒ (大雨警報が発表された場合)	☒ 避難準備・高齢者等避難開始 が発令 ☐ 土砂災害警戒情報 が発表 ☐ 累積雨量が()mm を超過 ☐ 時間雨量が()mm を超過 ☒ 前兆現象 を確認 ☒ (教育委員会からの連絡があった場合) ☒ (大雨警報が発表された場合)	

■情報収集・伝達事項の整理

当校に関わる災害の危険性などを把握するために情報収集をおこなうとともに、職員や外部機関、生徒保護者などへの情報伝達をおこなうことで、円滑かつ迅速な避難誘導へと繋げること目指し、情報収集・伝達事項について、下記に整理する。

(1) 情報収集及び情報伝達を担う担当者

- ・様式 2① に示す「情報収集・連絡班」を基本とする
- ・夜間や休日など通常体制と異なる場合は、
「情報収集・連絡班」が参集するまで在勤者が役割を担う
- ・そのほか
()

(2) 情報収集

- ・収集する主な情報及び収集方法を、様式 3-1 に整理する。
- ・基本的には、下記のような情報を対象とする。
 - － “気象情報”・“避難情報”などの行政からの情報
 - － “雨量”などの実測値
 - － 当校周辺で確認される“土砂災害の予兆現象”など
- ・そのほか
()

(3) 情報伝達

- ・入手情報の伝達・共有ルートを様式 3-2 に整理する。
- ・また、外部機関との連携が想定される場合には、あらかじめその旨を相談し、緊急連絡先として整理する。
- ・そのほか
()

■入手情報の概要・入手方法等【主担当：情報収集・連絡班】

(様式3-1)

年 月 日作成

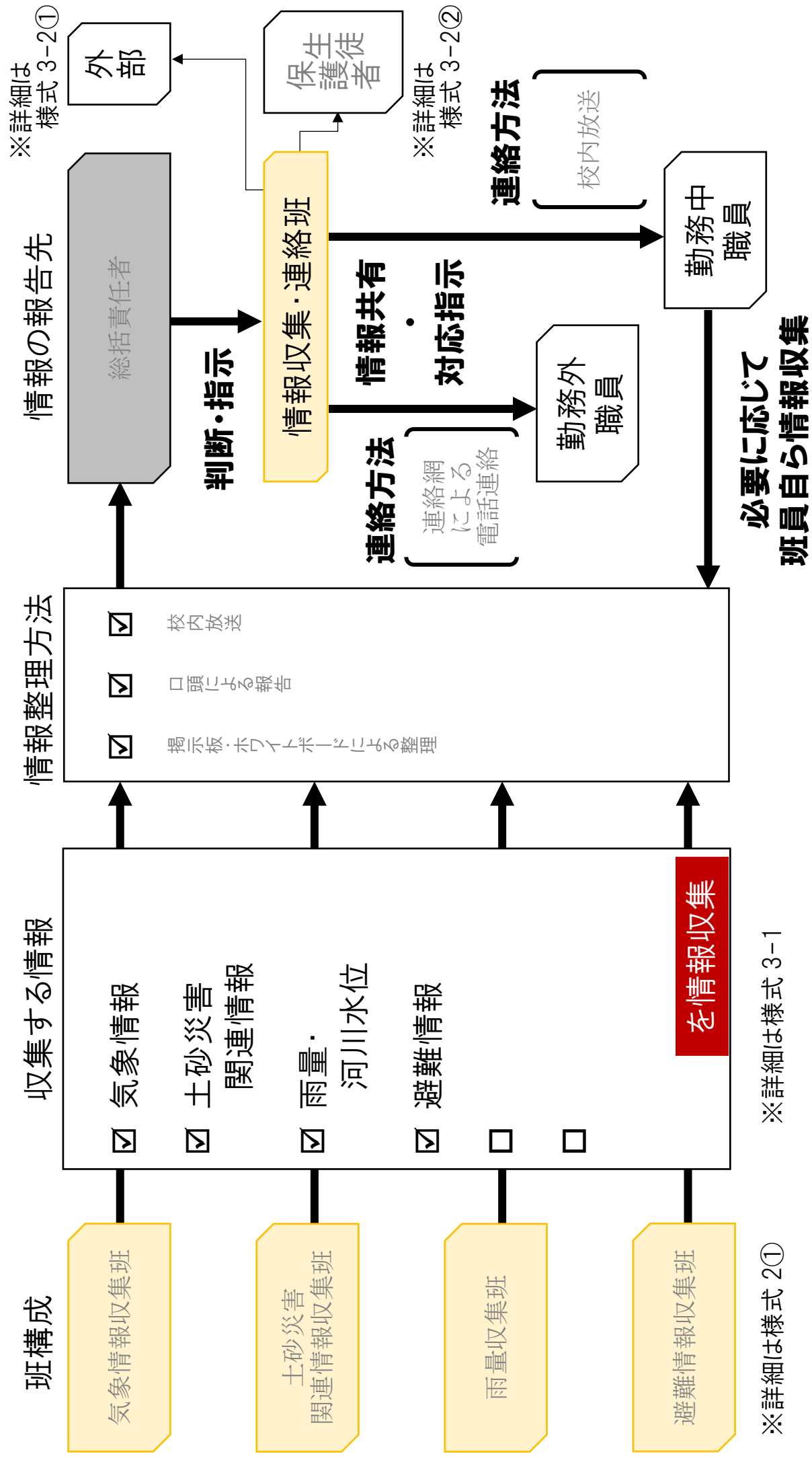
※事前にウェブサイトをお気に入り登録するなどして、緊急時に備える【使用するPC：生徒情報登録用PC】

情報名		概要	活用場面	主な入手方法	備考
気象情報	大雨注意報／大雨警報／大雨特別警報	災害がおこるおそれのあるときに気象庁が発表する雨の強さを表した基準	☒ 体制の移行 ☒ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
	記録的短時間大雨情報	数年に一度程度しか発生しないような大雨時に発表。現在の降雨が災害の発生につながる可能性があることを意味する	☐ 体制の移行 ☒ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
	天気予報・台風情報・雨雲の様子等	数日・週間単位の天気の移り変わりを把握するために特に重要となる情報	☒ 体制の移行 ☐ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか(自治体メール)	
	土砂災害警戒情報	大雨警報(土砂災害)が発表されている状態で、危険度がさらに高まったときに、市町村単位で警戒をよびかける情報	☒ 体制の移行 ☒ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
雨量・河川水位	土砂災害警戒判定メッシュ情報	土砂災害警戒情報、大雨警報等を補足する情報。5km四方の領域(メッシュ)ごとに土砂災害発生の危険度を5段階に判定した結果を表示	☐ 体制の移行 ☐ 避難判断 ☐	ウェブサイト そのほか()	
	土砂災害の予兆現象	土砂災害発生前には、予兆現象が確認されることがある。各種情報が発表・発令されていない状況においても有益な情報として活用できる	☐ 体制の移行 ☒ 避難判断 ☐	職員の目視、ライブカメラ そのほか()	
	雨量情報	現状の雨量及び過去3日程度の雨量(累計雨量)が確認できる(一定の雨量が長期間継続している場合等注意が必要)	☒ 体制の移行 ☐ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
	河川水位情報	現状の水位及び過去1日程度の水位変化が確認できる(一定の基準以上の水位上昇が確認できる場合等注意が必要)	☐ 体制の移行 ☐ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
避難情報	避難準備・高齢者等避難開始／避難勧告／避難指示(緊急)	市町村から発令される避難の基準。要配慮者施設等では早めの避難が求められている。	☐ 体制の移行 ☒ 避難判断 ☐	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか(戸別受信機)	

■入手情報の伝達・共有ルート【主担当：情報収集・連絡班】

(様式3-2)

年 月 日作成



■外部への情報伝達ルート及び緊急連絡先一覧表

【主担当:情報収集・連絡班】

年 月 日作成

1. 下記の際に外部へ情報伝達をおこなう（該当する体制をチェック）

☐ 第2次体制時 ☐ 第3次体制時 ☒ 避難(待避)行動開始時

2. 情報伝達ルートは下記のとおりである



3. 緊急連絡先一覧表を下記に整理する

連絡先	電話		FAX	担当者 氏名
		(夜間)		
近隣の学校〇〇	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	〇〇 〇〇
医療施設〇〇	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	〇〇 〇〇
自治体防災課	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	〇〇 〇〇
自治体教育委員会	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	〇〇 〇〇
自治体消防本部	9999-99-9999	9999-99-9999	9999-99-9999	〇〇 〇〇
消防・救急	119	119		
警察	110	110		

■生徒情報把握資料【主担当： 担任 】

年 月 日作成

①生徒情報一覧表(基本情報)

番号	クラス	氏名	生年月日	性別	移動時の支援の要否
1	1-1	〇〇 〇〇	9999/99/99	男	不要
2	1-1	〇〇 〇〇	9999/99/99	男	不要
3	1-1	〇〇 〇〇	9999/99/99	女	不要

②生徒情報一覧表(個票)

番 号		1
クラス		1-1
氏 名		〇〇 〇〇
生年月日		9999/99/99
性 別		男
心身の状態		健康
服用中の薬		なし
搬送方法		徒歩
避難に係る留意事項		なし
連絡先1	氏 名	〇〇 〇〇
	続 柄	母
	電 話	999-9999-9999
連絡先2	氏 名	〇〇 〇〇
	続 柄	祖父
	電 話	999-9999-9999

■緊急時の避難誘導

避難誘導については、下記のとおり行う。

(1) 避難場所

- ・避難場所の名称を下表に整理するとともに、様式 4-1 または 様式 4-2 で図示する。

(2) 避難経路

- ・避難経路について 様式 4-1 または 様式 4-2 で図示する。

(3) 避難誘導

- ・避難場所までの移動距離及び移動手段を下表に整理する。

施設タイプ チェック (5 ページ結果)	避難 方法	避難場所	移動 距離	移動 手段
	校舎外 避難原則		() m	☐ 徒歩 ☐ 車両 ()台
✓	校舎内 待避可能	3階視聴覚室 3階多目的室		

※ 校舎外避難が原則な場合においても、大雨等で校舎外避難が困難だと想定される場合には、校舎内で比較的安全と思われる場所へ待避を行う。

※ 校舎内待避が可能な場合においても、今後の状況悪化に不安がある場合などにおいては、避難時間に余裕がある場合のみ校舎外避難を行う。

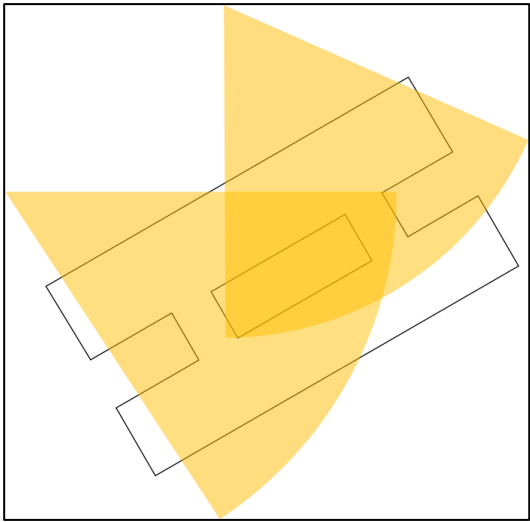
校舎内待避

■待避ルートと留意点 【主担当：避難誘導班】

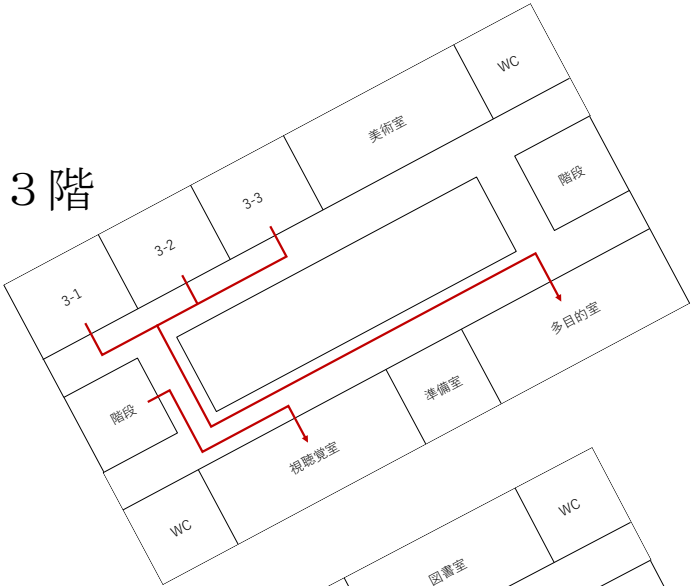
校舎内待避時のルートと待避の際の留意点を下図(または別紙)に示す。

年 月 日作成

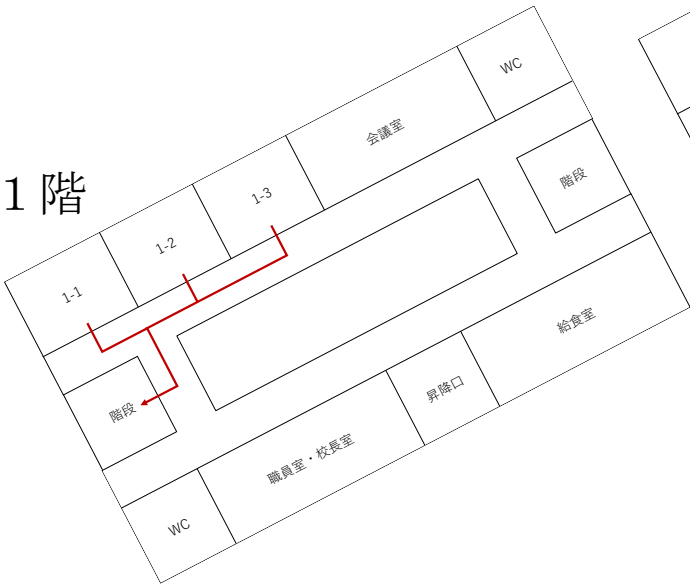
【イメージ図】



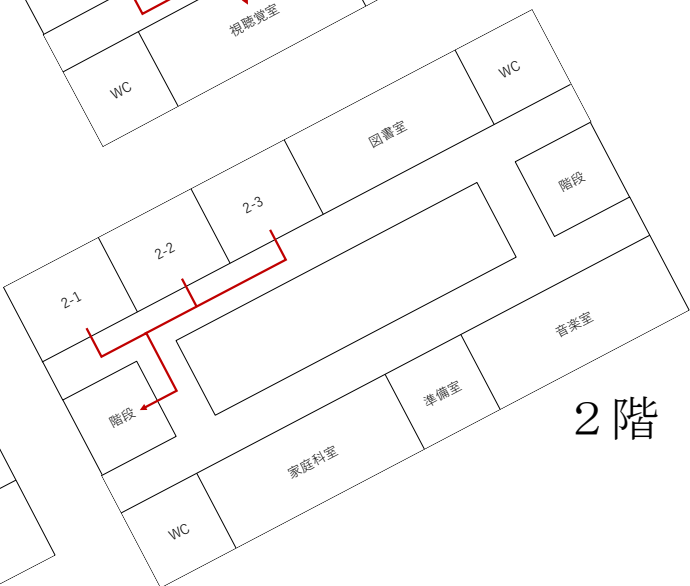
3 階



1 階



2 階



校舎内
待避場所

3 階 視聴覚室、多目的室

■備蓄品および災害時必要品チェックリスト

(様式5)

【主担当：物資班】

年 月 日作成

避難(待避)の確保を図るため、下表に示す備品(チェックを入れたもの、括弧内には個数)を準備する。また、日頃からその維持管理に努めるものとする。

大区分	小区分	品名	必要物資	携行品	備蓄品	品名	必要物資	携行品	備蓄品
食料	食料品等	米()				お菓子類()			
		飲料水(230 人分) [1 人 1 日 3 リットル]	✓		✓	栄養補助食品() [経管栄養剤、ブリックゼリー等]			
		乾パン(230 人分)	✓		✓				
	炊事道具等	カセットコンロ()				厨房の大きな鍋()			
		炊飯器()				やかん()			
		紙皿()				割り箸()			
日常生活品	情報機器等	サーバー一式				職員ノートPC(10)	✓		✓
		カルテ管理用 PC				携帯電話(各自)	✓		✓
		テレビ(1)	✓			ラジオ(2)	✓		✓
		ファックス(1)	✓						
	生活用品等	トイレトペーパー(5 ケース)	✓		✓	ティッシュペーパー(5 ケース)	✓		✓
		リハビリパンツ M・L()				紙オムツ M・L()	✓		
		尿取りパット夜用()				ウェットティッシュ(5 ケース)	✓		✓
		ポータブルトイレ(5 ケース)	✓		✓	女性用ナプキン(5 ケース)	✓		✓
		吸いのみ()				石けん()			
		ごみ袋(5 ケース)	✓		✓				
	照明、暖房等	石油ストーブ(2)	✓		✓	カセットガスストーブ()			
		石油()				蓄電池()			
		カセットガス発電機()				懐中電灯(10)	✓		✓
		ローソク(10 ケース)	✓		✓	電池(20 ケース)	✓		✓
		ライター(5 ケース)	✓		✓				
	その他	生徒書類一式	✓		✓	小口金庫			
		勤務表	✓		✓				
医療介護用品	医療品等	体温計(5)	✓		✓	血圧計()			
		SP02()				各ユニット薬の板			
		解熱剤()				補液()			
		AED()							
	移送用具等	ストレッチャー(1)	✓		✓	車椅子(2)	✓		✓
	医療施設用	酸素濃縮機()				酸素ボンベ()			
		吸引器()				吸引チューブ()			
		マスク(5 ケース)	✓		✓	手袋 M・L()			

■教育・訓練の年間計画

下記のとおり、教育・訓練を実施する。なお、具体の月日や内容については、当校の状況を勘案しその都度検討することとする。

